

第2章 上ノ国町のすがた

2-1 上ノ国町の概要

(1) 上ノ国町の概要

① 位置と面積

本町は、北海道南部檜山振興局管内に位置し、江差町、厚沢部町、木古内町、知内町、福島町、松前町の6町と接しています。

東西約31.5km、南北約27.5km、総面積547.71km²の広大な面積を有しており、町土の92%が地下資源と森林資源を包蔵する山地で占められています。平野部は北部を流れる二級河川天の川、南部を流れる二級河川石崎川等の清流を有し、海岸部では、延長約30kmにわたり日本海に面しています。

② 地勢

東と南は大千軒岳をはじめとする松前半島の脊梁をなす山々が連なり、尖岳(とんがりだけ)に源を発する天の川が北西に流れ、南部には石崎川が流れています。町の中央を流れる天の川は12の支流を合し、流域に平野部が形成されています。

③ 気候

気候は、沿岸を流れる対馬暖流の影響を受け、北海道では温暖な地域であり、年間の平均気温は10.1度程度となっています。また、降雪量は比較的少なく、一年を通じて安定した風が吹くため風力発電が行われています。

④ 道路・交通

道路については、国道228号のほか、道道、町道等により道路網が形成されており、将来的には函館市と江差町を結ぶ高規格幹線道路である函館・江差自動車道の整備が計画されています。また、公共交通をみると民間の路線バスが運行され、住民の貴重な移動手段となっています。



(2) 上ノ国町の歴史・沿革

① 歴史

本町に残された先人の足あとは、旧石器時代といわれる約2万年前もの昔に遡り、縄文時代、続縄文時代、擦文時代と人々の暮らしが続いていたことが明らかになっています。

永享4（1432）年、当時、津軽の十三湖を拠点としていた安藤氏が、南部氏との争いで敗れて北海道へ渡海してきました。そして、渡島半島に館（たて）が築かれ、それらを中心として活発な交易活動が行われました。

長禄元（1457）年に武田信廣やその一族の活躍によって、花沢館、洲崎館、勝山館を中心に和人とアイヌ民族が共存した歴史がみられるようになりました。

当時は、松前から日本海側が「上之国」、太平洋側は「下之国」と呼ばれていました。勝山館によって日本海における北方交易の拠点として栄えたこの地に上ノ国の地名が残ったことが、町名の由来となったと伝えられています。

永正11（1514）年、2代目光広によって本拠は松前に移されましたが、勝山館には城代が置かれ、16世紀末まで日本海側の交易拠点として賑わいをみせていました。

延宝6（1678）年頃に、檜山番所が江差に移ったことにより、以降は日本海のニシンの群来（くき）を待ち、余市方面の漁場開拓や新田開発に夢をふくらませて鋤を振った半農半漁の時代となり、現在の産業基盤や生活文化が形成されました。

このような歴史的沿革から北海道では貴重な中世の史跡や文化財を多数有する歴史あるまちとなっています。

② 沿革

本町の沿革は、明治3年に上ノ国外六村戸長役場が設置され、明治35年に上ノ国村、木ノ子村、汐吹村、石崎村、小砂子村、大留村、北村の7村を併せて上ノ国村となり、二級町村制が布かれ、昭和42年に町制を施行して上ノ国町となり、平成29年には、町制50周年を迎えています。

2-2 人口と世帯の動向

(1) 人口の状況

① 人口と世帯

平成 27 年の国勢調査結果によると、本町の総人口は 4,876 人となっています。近年の人口推移をみると平成 22 年の 5,428 人から 552 人減少となっているなど、一貫して減少傾向にあります。今後もこの傾向は続くと推計されます。

② 年齢階層別人口

年齢階層別人口で見ると、平成 27 年の年少人口（14 歳以下）は 506 人（10.4%）、生産年齢人口（15～64 歳）は 2,427 人（49.8%）となっており、平成 12 年から人数が減少傾向にあります。一方、平成 27 年の高齢者人口（65 歳以上）は 1,943 人（39.8%）と平成 12 年より人数、構成比率ともに増加しています。

また、高齢化率の推移を全国及び北海道との比較で見ると、平成 12 年から全国平均や道平均を大きく上回り、平成 27 年には 39.8%となっており、高齢化が進行している状況です。

③ 世帯数

世帯数は、平成 27 年では 2,168 世帯で、平成 12 年の 2,578 世帯から 410 世帯の減少となっています。また、一世帯当たり人数をみると、平成 27 年では 2.25 人と、平成 12 年の 2.77 人から 0.52 人減少し、核家族化等世帯構成の多様化の進行がうかがえます。

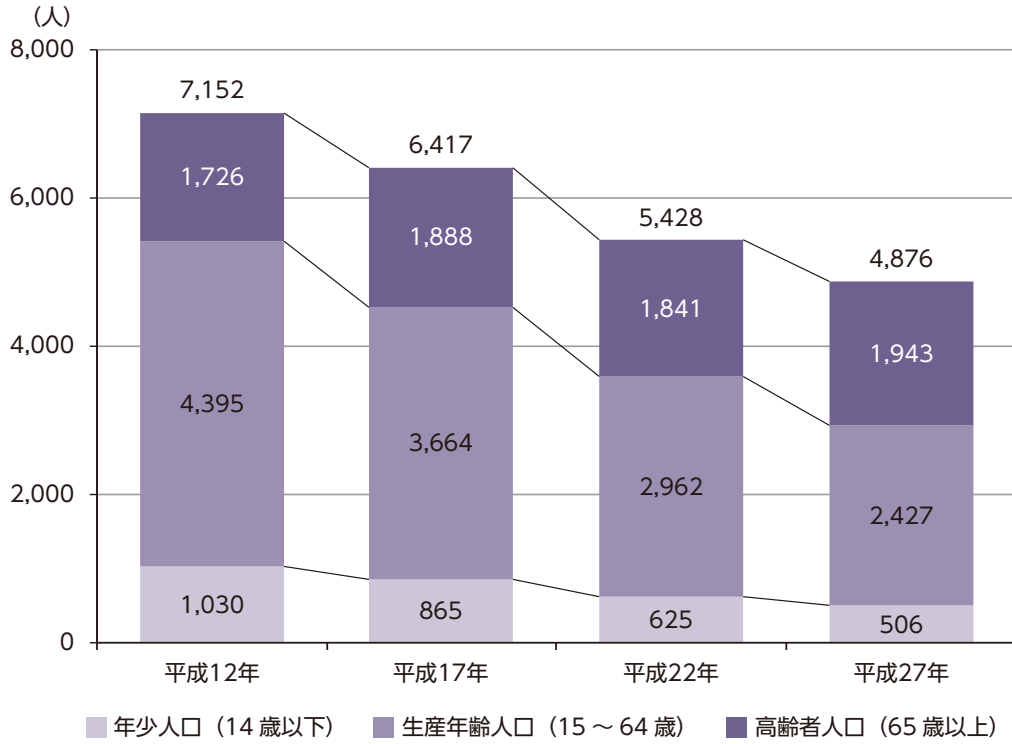
《人口と世帯の動向》

| 区 分 | 単 位 | 平成 12 年 | 平成 17 年 | 平成 22 年 | 平成 27 年 |
|---------------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 人数 (人) | 7,152 | 6,417 | 5,428 | 4,876 |
| 年少人口 (14 歳以下) | 人数 (人) | 1,030 | 865 | 625 | 506 |
| | 割合 (%) | 14.4 | 13.5 | 11.5 | 10.4 |
| 生産年齢人口 (15～64 歳) | 人数 (人) | 4,395 | 3,664 | 2,962 | 2,427 |
| | 割合 (%) | 61.5 | 57.1 | 54.6 | 49.8 |
| 高齢者人口 (65 歳以上) | 人数 (人) | 1,726 | 1,888 | 1,841 | 1,943 |
| | 割合 (%) | 24.1 | 29.4 | 33.9 | 39.8 |
| 世帯数 | 人数 (人) | 2,578 | 2,442 | 2,302 | 2,168 |
| 一世帯当たり人数 | 人数 (人) | 2.77 | 2.63 | 2.36 | 2.25 |

資料：国勢調査 ※総人口には、平成 12 年に 1 人の年齢不詳を含む。



《総人口と年齢階層別人口の動向》



《高齢化率の推移》

